

## 1996年度日本気象学会奨励金受領者選定理由

**受領者：**四宮 茂晴（函館海洋気象台）

**研究題目：**海陸風卓越時の網走の最高気温

**選択理由：**四宮会員は、昭和58年に気象庁に採用された後、北海道内の測候所、地方気象台、管区気象台、海洋気象台と多様な職場で、現業勤務のかたわら業務に関連した調査研究に取り組んできた。その成果は札幌管区気象研究会を中心に数多く発表されている。

四宮会員は、北海道を通過する低気圧の進路を十数年間の資料を基に調べ、北海道を南北に走る山脈や大雪山系が低気圧の進路に大きな影響を与えていることを示した。低気圧は地形の影響で変形や中心の分裂を生じ進路も不連続に変わるが、その形態は大きく4つに分類できることを見いだした。また「タンクモデル法による解析」では、土砂災害の危険度を示す指標としてタンク貯水量について基礎的調査を行い、がけ崩れの発生する限界貯水量を見積もった。この調査はその後各気象官署で行われた調査の先駆けとなった。

同会員は、現在、網走付近の海陸風の構造や、気温の変化と海陸風の動向の関連について調査研究を行っており、気温の変化パターンと上空の気象要素を組み合わせることで、最高気温の量的予報の精度向上をめざしている。

四宮会員は、今後も気象災害の軽減や天気予報の精度向上を目的とした調査研究を通して気象学および気象業務の発展に寄与することが大きいと期待されるので、本学会はここに奨励金を贈るものである。

**受領者：**大鹿 清司（埼玉県大宮市宮原中学校教諭）

**研究題目：**身近な気象現象の観測・観察を通じた気象教育

**選定理由：**大鹿会員は昭和49年から大宮市の中学校教員として勤務する傍ら、身近な気象の観測や観察に積極的に取り組んできた。大宮市の気温分布を測定し、夏の日中の気温が地域によって大きく異なり、大宮公園の森が市街地に比べて5度も低くなっていることを明らかにした。森が作り出した冷気が公園の周囲に広がること、その広がり方が風向きや市街地の作る暖気により変わることを示し、さらに森が広いほどその冷気も強いことを明らかにした。この観測は夏季に都市が人工熱により昇温していることが話題になる前に実施され、都市における緑地の重要性を指摘したという意味でも注目される。観測にあたり、中学生でも使える簡易の観測方法を考案し、科学クラブの生徒と一緒に観測したことで教育的な活動として評価される。この結果は気象学会や地学教育学会に発表した後、学会機関誌「天気」の気象談話室に掲載された。

また、浮沈子を利用した気圧計を製作し、気圧の変化と天気の変化を調べさせる実習を行ったり、高層ビルのエレベーターの中で気圧が変化する様子を演示するなど、測器が高価なため身近に感じにくい「気圧」概念を理解させるための工夫を行ってきた。これらの観測は、学校放送番組に出演する機会を得て公表された。

小中等教育の気象の単元は扱いにくいと言われる中で、大鹿会員は学校や家庭にある器具を利用して観測や観察を行い、自然現象の中に存在する気象の面白さを生徒達に体験させることを常に考えてきた。今後、このような活動が日常の授業実践においても生かされていくことが期待されるので、本学会はここに奨励金を贈るものである。